

学習の手引（内規）

1. 始業及び終業の時刻

- ①始業時刻は9時30分、終業時刻は16時45分とする。
- ②前項の始業及び終業については、校長が必要であると認める場合は、変更することができる。

2. 学習に対する心構え

- ①授業が学習の中心であるという認識に立って、向上心を持って授業に臨むこと。
- ②授業内容は、その日のうちに確実に理解するように努めること。
- ③疑問点があれば、自分自身で解決する努力をするとともに、教員や学友に積極的に質問すること。

3. 授業時間以外の学習

①代替授業

自然災害などの影響により授業が中止された場合は、代替授業を実施することがある。代替授業は教科科目に定められている規定の授業時間として算入する。

②補講

校長が認めたやむを得ない理由による欠席などによる学習の遅れを取り戻すために、補講を実施することがある。受講するには受講料（単位時間500円、1コマ1,000円）納入すること。

なお、補講は教科科目に定められている規定の授業時間として算入する。

③補習

学習の遅れを取り戻すために、補習の受講を課すことがある。

④特別授業

通常の授業以外の学習を行うために特別授業を実施することがある。実施内容、時間が適当であれば、職員会議を経て校長が認定することにより、選択科目として修得単位を割り当てることができる。

4. 試験

①教科科目ごとに試験を行い、年度末に通年の成績評価を行う。

②試験実施が困難な科目では、課題で代替する場合がある。

③追試験

a. 公欠（学則第24条）もしくは病気等やむを得ない事由で本試験を受験できなかった場合、事由を証明できる書類等を添えて追試験願を提出し、校長が認めたときのみ追試験を受けることができる。

b. 追試験後の成績評価は、試験と同じに取り扱う。

④再試験

a. 成績評価が不可の者に対し再試験を実施することがある。

b. 再試験を受験する場合は、事前に再試験願を提出し、受験料（1,000円）を事務局に納入すること。

c. 再試験の受験に際し、出席状況などを考慮し事前に補習等の条件を付すことがある。

d. 再試験の実施が困難な教科科目については、課題等で代替する場合がある。

e. 追試験に該当する事由で再試験を欠席した者は、追試験と同様の手続きを経て、別の期日に再試験を受験することができる。

5. 成績評価

①成績評価は、試験のほか確認テスト、模擬テスト、レポート、出席状況、授業態度により総合的に評価する。

②評価結果は、秀、優、良、可、不可の5段階とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とする。

判定	評価点	成績	GP	成績評価内容
合格	100～90点	秀	4	到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている

	89～80点	優	3	到達目標を十分に達成している
	79～70点	良	2	到達目標を達成している
	69～60点	可	1	到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	不	0	到達目標を達成していない
未履修	—			各科目について欠課が授業時数の1/3を超えるもの ※GPAの対象としない

- ③評価結果が不可の者に対し再試験を実施することがある。再試験実施後、試験の結果の代わりに再試験の結果を用いて評価をやりなおす。ただし、秀、優、良相当の成績であっても評価結果は可とする。
- ④年度末に通年の評価結果の一覧を成績表として、保護者（保証人）に送付する。
- ⑤卒業年次生は、就職活動に際し成績証明書の必要な場合がある。そのため、申請のあった者については各期末終了日前に、受講中の教科科目について中間評価を行う。その際、確認テストや模擬テスト、レポート、出席状況等をもとに評価を行う。

9. GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度について

- ①GP（グレード・ポイント）は、秀、優、良、可、不可評価の各評価に対し、4、3、2、1、0の順に付与する。
- ②GPA（グレード・ポイント・アベレージ）は、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

$$GPA = \frac{\text{【履修科目の単位数} \times \text{GP】の合計}}{\text{履修した科目の総単位数}}$$

$GPA = (4 \times \text{「秀」単位数} + 3 \times \text{「優」単位数} + 2 \times \text{「良」単位数} + 1 \times \text{「可」単位数} + 0 \times \text{「不可」単位数}) \div \text{履修登録単位数}$

$(\text{秀の単位} 3 \times 4) + (\text{優の単位} 5 \times 3) + (\text{良の単位} 4 \times 2) + (\text{可の単位} 6 \times 1) \div 18 = 2.3$
 ※小数点第2位は四捨五入
 つまり「2.3」がGPAとなります。

- ④学年GPA 学年毎に算出されるGPAをいう。
- ⑤通算GPA 在学中の全学期を通じて算出されるGPAをいう。
- ⑥学年GPAや通算GPAは、学内における評価や就職活動に使用することがある。

6. 試験に対する注意事項

- ①試験は厳正な態度で受験しなければならない。もし不正な行為があれば、その期における該当科目を全て不可評価とし、職員会議を経て校長が懲戒する。
- ②指定された席に正しく着席。特に許可のない限り筆記用具以外の持ち込みは指示に従うこと。
- ③受験の際、筆記用具等物品の貸借は厳禁とする。
- ④答えは試験場を退出するときには必ず提出すること。また、試験放棄は厳禁とする。
- ⑤遅刻者は、原則として試験開始後15分を経過した場合は受験できない。
- ⑥病気、その他やむを得ない事由で受験できなかった者に対しては、追試験願の提出等所定の手続きを経て追試験を行うことがある。この場合、事前又は試験当日連絡をし、かつ医師の診断書または理由書等の証明書を添付したときに限る。

7. 進級・卒業

①進級要件

年度末において次の要件のすべてを満たしていること。

- a. 各学科の定める当該年次の教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価がすべて可以上であり、進級必要時間数（単位数）を修得している。
- b. 当該年次の校納金（学費、教材費等）が納められていること。

②卒業要件

卒業年次の年度末において次の要件のすべてを満たしていること。

- a. 各学科の定める教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価がすべて可以上であり、卒業必要時間数（単位数）を修得している。
- b. 全ての校納金（学費、教材費等）が納められていること。

③留年

- a. 進級条件または卒業条件を満たしていない者は留年とする。
- b. 留年となった者が修得済みの履修単位については、すべて有効とする。
同じ教科科目を再度履修することは妨げないが、再度履修した教科科目については、成績評価は行わず、履修単位にも含めない。

8. 校納金（学費、教材費等）の納入について

- ①校納金（学費、教材費等）については指定された日までに納入すること。納入できない場合は、事前に事務局まで連絡をすること。
- ②校納金（学費、教材費等）について未納がある場合、卒業・進級・退学・転学は認めず、出席停止となる場合がある。